

みややまなかざといせき

宮山中里遺跡

(寒川町 No.27遺跡)

調査期間 20060401～20070331

所在地 高座郡寒川町宮山
3,370 他

時代
弥生時代
古墳時代
平安時代
中世
近世



概要

この発掘調査は、国土交通省関東地方整備局によるさがみ縦貫道路建設事業に先立つ調査として行われました。発掘調査は平成16年度から継続して行われています。平成18年度は、Ⅱ区とⅧ区を調査しました。

遺跡は相模川の左岸の自然堤防上に立地していて、南北に細長く広がっています。Ⅱ区は相模川から250mほど離れた内陸側の地点で、古墳時代終わり頃から平安時代、中世、近世の遺構が発見されています。今回調査した範囲では、古墳時代終わり頃から平安時代の溝状遺構や土器溜り（土器集中）、平安時代の井戸跡、平安時代～中世と思われる畝状遺構や土坑が発見されました。平安時代の溝状遺構には多数の土器が捨てられていました。

Ⅷ区は相模川とJR相模線との間にある地区で、現在の相模川から50～100mほど離れた位置にあります。調査区が南北に点々と分かれているため、Ⅷ-1区～Ⅷ-7区というようにして地区名に枝番号をつけて調査を行いました。弥生時代の竪穴住居跡、古墳時代後期の古墳跡、平安時代の竪穴住居跡や土坑、中世の竪穴状遺構、近世の溝状遺構や墓跡などが発見されています。平成18年度は古墳周溝が新たに5基発見され、これまでの調査成果と合わせて古墳時代後期の円墳の跡（古墳の周りを廻る溝跡）が、南北に点々と並ぶようにしてあることがわかってきました。北隣の倉見川端遺跡で発見されている古墳周溝跡と合わせて、これまでに28基が発見されています。



▲Ⅱ区古代面の遺構全景



▲Ⅷ-1区の遺構 2号墳(円墳)の周溝と近世の溝



▲Ⅷ-2区 近世の溝と中世の竪穴状遺構の調査